



第161号  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長 吉澤慶  
 編集人 会報編集委員 長 黒岩幹夫  
 印刷所 須坂新聞社

# 同好会の充実した活動を願って

## 自己研修の場として大切に

### 西沢享良

夏休み中の同好会はいかがでしたか。各同好会ともすばらしい計画がたてられていましたので、きっと満足感のもてる活動ができたことと思います。猛暑の中でしたが、充実した一時をすごされたこと参加された先生方本当にご苦労さまでした。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

その三番目の「教師としての項の(5)自己研修」感性を豊かにし、多様な児童生徒の悩みを温かく受けとめ、それに確かに応じられる力量の向上とともに、自分の専門領域における力量の向上を図る研修に常に努めることが必要です」と言われております。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

本年度の同好会には二百八十五名の会員で出発しました。八校あり、百分の学校の学校が深まりと、お互いに自己研修の場の一つとして大事に受け止めているからだと思います。学校の中に向学の風が育ってきているからだと思います。きつと、校内研究も深まりをみせているのではないでしようか。

になり、児童・生徒の範になれるように努力したいと思えます。そのことが、きつと子どもたちの学力を高めていく大きな原動力になるのではないでしようか。

現在十五の同好会がありますが、他にこんな同好会があったらいいな」というお考えの方は、「新たに同好会を新設したい場合は、五名以上の連名をもって教育会長に申し出し、教育会長は常任委員にはかかって決定する」となっておりますので、申し出をいただけましたら幸いです。

本年度の活動も半ばが過ぎ後半に入りました。これまでの活動をふりかえり今後の活動が、さらに充実したものにできるようにしてください。各同好会のますますの発展と活性化を期待しております。

(墨坂中)

お互いに忙しい毎日ですが学校の枠を越え、広く郡内の同好の先生方と一緒に、熱い想いをかけて、自分の課題を追究することも、自己研修の場として大切なものではないでしようか。

上高井教育会は研究委員会とともに同好会を大事にしています。これまで、多くの先輩方々がすばらしい実践を残されてきています。これらを引き継ぎ、さらに創造的な活動をし、一層の充実と発展をさせたいものです。そして、向学の気風に満ちた教師集団

お互いに忙しい毎日ですが学校の枠を越え、広く郡内の同好の先生方と一緒に、熱い想いをかけて、自分の課題を追究することも、自己研修の場として大切なものではないでしようか。

上高井教育会は研究委員会とともに同好会を大事にしています。これまで、多くの先輩方々がすばらしい実践を残されてきています。これらを引き継ぎ、さらに創造的な活動をし、一層の充実と発展をさせたいものです。そして、向学の気風に満ちた教師集団

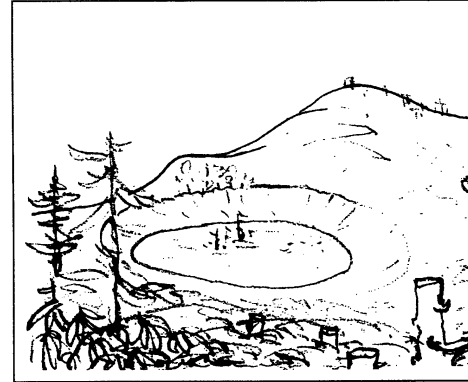
## 教育会だより

- 7・1 教育七団体連絡会結成準備会 於教育会館
- 4・4 上高井教育会報第160号発行
- 4・4 第4回常任委員会
- 6・6 第1回研究委員会(午後) 於教育会館
- 12・6 教育研究会分科会長・司会者会 於教育会館
- 15・15 第5回代議員会中止
- 29・29 教育七団体結成会 於教育会館
- 8・24 教育七団体代表者会 於教育会館
- 9・31 教育七団体代表者市内四高等学校へ陳情 第5回常任委員会
- 1・1 教育研究会中間連絡会 於教育会館
- 9・9 第6回代議員会、信教各種研究調査編集委員中間報告会(1)
- 26・26 上高井教育会報第161号発行

小屋がある。そこから西へ登ること三分、雨量観測所の。チンマザサの藪ごぎをす ある頂に出る。そこからスケッチのような火口が望める。深さ約一〇M・経七〇Mのスリ鉢状火口。底は水平で池状を呈すが、ササやモミの幼木が生える。登山口にも「小神池」ともいえる凹地の火口跡がある。神池山の北側は角間川の源流部馬蹄形の急崖で爆裂火口を予想させる。

牧場のスロープは神池火山の熔岩流による。車道開削による露頭では下部熔岩と上部熔岩の違いが観察できる。地元の人々が観察と横掘と呼ぶ沢地形があり、熔岩流末端の重なり、旧火口壁との境界を示すともみえる。

(青木廣安)



神池山(約一九八〇M)は山田牧場の北東、「小笠」の奥にそびえる伏鍋状の山体。付近に笠岳・堅壁などドーム火山が多い中で、噴火口をもつ火山。火口跡に水が溜まって池になっていることが名の起源。モミなどの原生林が伐採されて枯渇したまま。牧場と熊ノ湯線の峠に笠岳

# 夏期研修で 学んだこと

## 二万句も残っている一茶の俳句

齋藤 章子

○ざぶざぶと 白壁洗う  
若葉かな(一茶)

八月八日、宮本経祥先生を講師にお願いし、「一茶の俳句に参加者のもとでおこなった。冒頭の句は、宮本先生が、「一茶の珍しい数の俳句の中でこの句に出会った時に、目がさめるような気がして一茶を改めて研究するきっかけになった」と紹介された一句である。

一茶の俳句は二万句残されているという。蕪村の四千句芭蕉の千七百句と比べてもその数の多さは群をぬいている。○やせがえる 負けるな  
一茶 これにあり  
○鳴く雁 どっこも同じ  
うき世ぞや  
○雪溶けて 村いっばいの  
子どもかな  
などの十数句の一茶の句は、とくに俳句を学んだことがない私でもすぐに口からでてくる。

では子供の頃から身近に感じよく知っていると思い込んでいたがとんでもない。二万句のうちほんの一部分、一茶の句などを含めたとしても読むだけではせいぜい二百句くらいだろう。それもある選者の選択眼で選ばれた句だけにしか接していないことになる。この学習会に参加して「まず自分の眼で二万句全部読んでみたい」と思った。宮本先生は、「一茶は生活者の眼でその場で自分をほきだして俳句を作ったものだから、無造作に作ったものは読み捨て、重い句を自分の眼で選びながら読んでいくことがよいのではないかと話された。先生のいわれる「重い句」とは、作者の感動が込められている句・言葉が精選され写真が適切な句・自分の内面に踏み込んだ句である。そして一茶の俳句の特徴は・無邪気な子供のような心・弱い者に対する優しい目・軽妙なユーモア

一茶の人間性として、  
・俗人である  
・生活者である  
・門徒である(浄土真宗)をあげられ、これらは一茶の俳句を理解していく上で参考になるだろうと言われた。題材で見ると、一茶には類句が多く、「初雪や」百二十八句「うぐいすの」八十八句「名月や」七十二句。また「新年の部」七十四句「春の部」四六八四句の多さである。二万句もある俳句は、読み手によって様々な視点で読むことができる。私も何か一つ自分の視点をきめて読んでみようと思った。

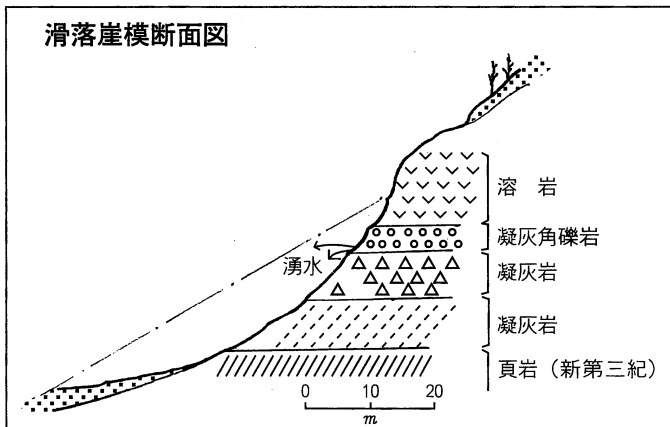
「小さな疑問を大切に」この言葉は、長年文学同好会の作品研究会の講師をしていただいた安良岡康作先生が、以前色紙に書いてくださった言葉である。作品研究をする時には「おや?」「あれ?」と自分で感じたどんな小さなことでもいいから、それをきっかけに始めることだといわれた。

当日、参加された先生から  
○焚くほどに 風がくれたる  
落葉かな(一茶)  
○焚くほどは 風がもてくる  
落葉かな(良寛)  
の二句がよく似ており、一茶は良寛より五才年少だが二人が接した時期があったのだからうかという疑問、  
○さびしさに 飯を食うなり  
秋の風(一茶)  
の句は、長女さが没した頃に詠まれたのだろうかなど一

茶の私生活と俳句の詠まれた時期のかかわりについての疑問等いくつかの質問がだされ、これら疑問を大事にし、

## 理科同好会夏季講習会

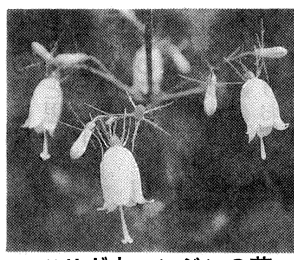
内藤 格



滞りがちな現地を歩いている研修を深めることができた。この宇原川は、一九八一年八月台風十五号により大規模な土石流を生じ、死者を含む大災害を引き起こした。この土石流の発生地と見られるのは、宇原川支流ロットの滝西方約三五〇M、標高一四五〇M付近である。この支流

この源流部において土石流は発生した。崩壊地は幅一〇〇M高さ四〇Mに及ぶ。この崩落によりこの地点はいくつもの地層が顕著に観察できる。大きくは、別所層と呼ばれる黒色泥岩からなる地層が基盤となり、その上に火山の噴出物が堆積している。その厚さは約三〇Mさらに、溶岩が厚く覆っている。溶岩下部は、礫層となっており、堆積している。上流域は道もなくやぶの中を樹木をかきわけながら進む行程でしたが、溪流の冷たい水も印象に残りました。

八月八日理科同好会では地学分野を中心とした宇原川流域自然調査を行った。連日の暑さにもかかわらず八名がこれに参加し、日頃



ツリガネニンジンの花



梯子山での化石採集

さらに、峰の原梯子山中腹で、頁岩層より化石の採集を行いました。(高山中)



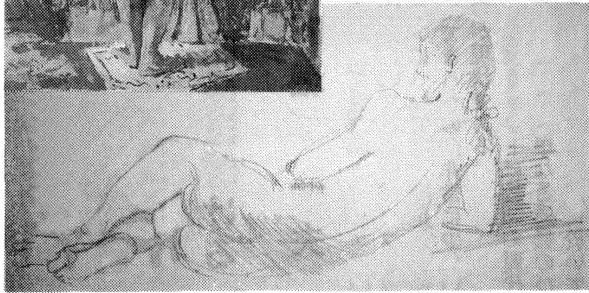
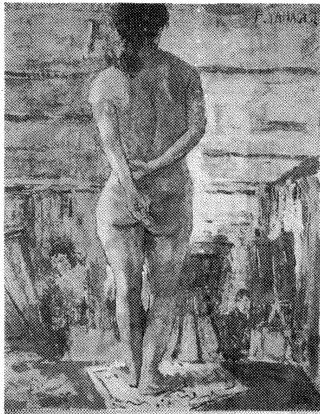
水の沢最上流部を登る

# 美術同好会

山岸 深志

美術同好会では、例年夏休みに裸婦講習会を行ってまいりて追求して最後の日には合評会をもつこともできました。今年度は七月二十九日・三十日・三十一日の三日間、須坂小学校の視聴覚室をお借りして実施しました。同好会員をはじめ、先輩の先生方にも呼びかけ、約三十名の参加者を得て行うことができました。

今年、例年になく猛暑のため、朝九時から午後四時までの講習は大変でしたが、参加者は時の経つのも忘れ一生懸命絵筆を走らせていました。初日はなかなか形がつかめず



苦勞していましたが、自分なりに追求して最後の日には合評会をもつこともできました。三日間の成果を確かめるとともに、今後の課題についても考えさせられました。これから更に勉強を深めていく必要性を感じながら、三日間の講習会を終えることができました。

なお、同好会員の作品展示を上高井郡の教育研究会で行いたいと考えておりますので、ご高覧いただきたく思います。(相森中)

# 洋上研修にて

宮坂 周吾

八月一日から十日までの十日間、洋上研修に参加させていただきました。この研修では主に三つの活動研修が行われました。まず一つ目としては多方面に渡る先生方の講義をお聞きすることができました。私が一番印象に残っているものとしてお茶の水女子大学の森隆夫先生の「教師像」というお話がありました。このお話の中に日本で三人いるノーベル物理学賞を受賞した

八月一日から十日までの十日間、洋上研修に参加させていただきました。この研修では主に三つの活動研修が行われました。まず一つ目としては多方面に渡る先生方の講義をお聞きすることができました。私が一番印象に残っているものとしてお茶の水女子大学の森隆夫先生の「教師像」というお話がありました。このお話の中に日本で三人いるノーベル物理学賞を受賞した

# 本校の宝⑥ 三様の庭園

日滝小学校

本校は、昭和五十五年四月大谷町宮居地籍より現在地に移転改築され、新校舎・施設をもって教育の場としての機能を果たしつつ現在に至っている。

当時の記録によれば、移転改築の最重点に、教育の外的環境整備充実をあげ、進められたと記されている。この環境整備の充実の顕著なものとして、三つの庭園をあげることができる。

まず、本校南端に位置する前庭の日本庭園、中庭の西洋庭園、そして、北端の自然樹木園である。校地内に巧みな変化と統一をみせて造成され

感を得られるような教師を目指していきたく思います。二つ目として寄港地活動がありました。寄港地としては長崎、沖繩があったわけですが、長崎平和公園やグラバー園、大浦天主堂、ひめゆりの塔、首里城などを見学してきました。ひめゆりの塔では貴重な戦争体験をお聞きすることもできました。

三つ目として班を中心とした研究発表会がありました。これは一人一人から事例をまじえた意見を出していき、これから子ども達とどのように接していけばよいのかという意見交換会がありました。参



(宮下克彦)

この地域に見られる自然の草木を集め、学習や遊びに役立たせようとして造られた自然樹木園。この夏にはクヌギの木にクワガタがやって来た。秋には、子どもたちが、もみじを集め、ドングリを拾い、多くの小鳥たちが木々の実を啄みにやってくる。このような自然とのふれあいのある環境の中で、自然園の樹木と共に日滝の子どもの成長を期待せずにはいられない。

「環境は教育の母である」という言葉がある。この言葉どおり、人間形成に及ぼす環境の重大さ。この三つの庭園が本校の誇りである。

加者の中には何年か講師をやっていた方が多かったのですが、いろいろな事例があり、私にとつてたいへん勉強になりました。今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。

この研修では自分の姿というものを返す貴重な機会にすることができました。今までの自分を反省し、これからの指導への活力がついて帰ってくることをできました。この研修に参加する機会を与えていただいたことに対して、大変感謝しております。ありがとうございました。

(仁礼小)

# CAI導入と教材開発における研究と課題



内堀 一夫

近年、小・中学校におけるコンピュータの導入が盛んになってきており、ほとんどの学校が、コンピュータをなんらかの形で活用した授業を行っている。活用の一つの形態として、CAI教育が注目されている。CAI(Computer Aided Instruction)は、コンピュータを使用した教材ソフトウエアであり、生徒はコンピュータを操作することにより対話的にその題材についての知識を学ぶことができる。生徒に興味をおこさせ、しかも生徒一人ひとりの理解度に応じた進捗が可能であるので、その教育効果が注目されている。

CAI教育において最も問題となるのが、良質なCAIソフトウエアの開発であろう。一般的に日本ではソフトウエアに対する認識が遅れており、ハードウエアとしてのコンピュータを導入したものの、ソフトウエアがないためにいっこうに活用されない学校も少なくない。多くのメーカーか



# かいじゅう揚

牛丸 優美

自分の子供の頃を振り返る時、いつも思い出す懐かしい味がある。それは、私を通していた保育所でおやつにだされていた『かいじゅう揚』というお菓子の材料や形から言えば、球状のドーナツと言えるが、生地を玉杓子で掬って揚げていたのだらう。丸いところに尻尾やさかのおまけが付いて、真にマンガの怪獣を思わせるユーモラスな姿をしてい

# ある農夫の言葉の中に

倉島 芳朗

平穩な小布施中学校の一学期も終了しようとしていたある日の放課後、一人の老人が手に空き缶を持って、職員室の窓からいきなり「この学校では、どんな子供を育てているんだ」と大声で怒鳴り込んで来た。理由を聞いてみると、当校の生徒たちが帰宅の途中、その老人の畑の中にジュースの空き缶を投げ入れ、さらにその内の一人は、老人のバイクの籠の中に、彼の手にしている空き缶を投げ入れていったとのことである。

内心、あまり大したことではないのでホッとしたが、その老人の誠実な人柄の中にも怒

きりと私の記憶に残っていたかどうかかわらない。今になって思い出しは感心している。懐かしい味と言え、もう一つ、母がよく作ってくれた寒天ゼリーを思い出す。市販のゼリーの素に牛乳を入れたパステル色の牛乳寒や、フルーツゼリーを流した上に、食べ残しのパンの耳やビスケットを並べて固めたビスケットゼリーなど、短時間でもひと工夫して作ったものだった。母が留守の時には、広告紙の裏におやつのあるところ、それに一言、二言添えられたメモがあり、冷蔵庫を覗くとアルミの弁当箱の中で、ゼリー

「かいじゅう揚」という面白い名前のお菓子、母が忙しい中で作ってくれたゼリー。何年たっても、その味や形をほつきりと思いつけるのは、それを用意してくれた人の気持ちが隠れていたからだろうと、この頃になって考える。子どもの前に立って二年目自分の気持ちだけが空回りしているようなことが多いが、「言葉がなくても伝わる気持ちがあるのだ」と気付かされた。

(豊洲小)

# 編集後記

記録的な猛暑の夏が過ぎ、あつという間に秋になってしまった感が致します。無理なお願いかかわらず、お忙しい中、原稿をお寄せくださった先生方、本当にありがとうございます。本年度も各同好会で夏期研修がなされました。本号では文学・理科・美術同好会の様子を掲載致しました。ほかの同好会の活動の様子についても全会員の皆様からされる機会が設けられるといいと思います。

(内藤・前角)